



修了式+αでの二人のお話

令和6年度の修了式の中と、その後で行われた全校集会でのお二人のお話です。

【河本校長先生のお話】 式の中で、校長先生がお話した内容です。

皆さんは「VUCAの世界」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。

これは、より変わりやすく不確実、複雑で曖昧な世界を意味し、今後、10年・20年先の未来の世界の様子を示すものとして使われています。

この「VUCAの世界」を、みんなとともに、自分らしく生活していくためには、何が必要だと考えますか？

多くの力が考えられますが、その中核をなす概念に「エージェンシー」と「ウェルビーイング」というものがあります。

エージェンシーとは「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」として定義されていますが、みなさんが大切にしている「気づき・考え・行動する力」こそ、まさにエージェンシーと呼べるものです。

ウェルビーイングとは「一人ひとりのより良い状態、みんなの幸せ」を意味します。

つまり、これから社会の中で必要とされる力とは、「みんなや自分の幸せのために、当事者意識をもって、気づき・考え・行動する力」となります

ぜひ、明日からの、いや今日からの生活において、「身の回りにある課題や問題」に対して、「人任せ」ではなく、当事者意識をもって「自分事」として捉え、その改善に向けて、チャレンジを続けてほしいと思います。きっと、その結果として、君たちのエージェンシーは一層磨かれ、みんなのウェルビーイングが高まり、豊かな成長が実現されると思います。期待しています。

その際に、大切にしてほしいこと、これが2点目の話、「最後が肝心」です。

人は何事も、初めは気合を入れて取り掛かるものですが、終わりは「まあいいか」という気持ちになりがちです。しかし、成功の秘訣は、「物事の終わりにある」といっても過言ではありません。

上手いいかないことは誰にでもあります。問題は、「上手いいかないこと」ではなくて、そこから何も学ばず、同じ過ちを二度、三度と続けてしまうことです。

大切なのは「失敗」を素直に反省して、次につながる「一手」をしっかりと考え、取り組むことです。

「どうしてできなかったのか」に止まることなく、「どうしたらできるのか」と、未来志向で、自分事として物事を捉えて、「前へ・前へ」と、確実に歩みを進めてください。楽しみにしています。

【藤本生徒会長のお話】 式後の全校集会で、生徒会長がお話した内容です。

年間スローガンは「飛翔」です。このスローガンは1月の中央委員会で、各クラスの学級委員に話し合ってもらい、その案をもとに、話し合いを重ね、生徒会役員で決定しました。この「飛翔」という言葉には、生徒全員が個性を発揮し、高く羽ばたいてほしいという意味があります。

前年度は「共創」というスローガンで、生徒全員が学校を作るという目標で、学校全体の力をつけました。

そして来年度からは、生徒一人一人が、個人の場でも力を発揮し羽ばたく事で、学校全体のパワーアップへと繋げていきたいと思います。

そして、その羽ばたく場所を創る事が、僕たちの仕事だと考えています。これからは「飛翔」をもとに、僕たちの生徒会活動を進めて行きます。生徒全員の力を使って、今以上に、浅江中をいろいろな視点で良い中学校にしていきます。